



# ABILITY

## ABILITY Pro徹底攻略！

### その11 自分の歌声からリッチなコーラス・パートを作ろう

現代のDAWソフトに欠かせないオーディオ編集の1つに、ボーカルのピッチやタイミングの補正があります。ABILITYでは、「ボーカルエディタ」を利用して行うことができますが、他のソフトと一味違うのは、解析したピッチ&タイミング...つまり、歌メロのフレーズに対して、ソングの調性やコードトラックの情報から自動的にハモリ・パートを作成するAUTOハーモナイズ機能を搭載している点です。

(文：平沢栄司)

#### ボーカルに加える3度ハモリをシミュレーションしてみる

ボーカルにハモリを加える時の定番は、メロディーの3度下か上のラインを歌う3度ハモリになるでしょう。慣れてる人なら自分でハモってレコーディングすればOKですが、初心者の人だと、どんなフレーズでハモればいいのか悩むこともあるでしょう。そんな時は、レコーディングしたボーカルのトラックを基に、AUTOハーモナイズ機能を使ってハモリ・パートのフレーズをシミュレーションすればいいのです。

まず、ボーカルエディタでボーカルのトラックを開きますが、この時、トラック上でハモらせたいフレーズの前後で波形を切り分けてから、そこだけをボーカルエディタに読み込むとピンポイントでキビキビと作業できるのでお勧めです。

続いて、編集メニューよりAUTOハーモナイズの画面を開きます(画面1)。まずは、3度下ハモリだけが作成されるように、3つあるハモリパートの「-長3度(4半音)」以外の2つをMUTEしておきましょう。そして、歌メロのフレーズや曲の調性に合わせたハモリのフレーズが作成されるように、左のAUTO HARMONYは「APPROACH」、下のAUTO CORRECTは「KEY」を選択します。

試聴ボタンで作成されたハモリを聴いてみて特に問題ないようなら、OKボタンをクリックしましょう。すると、ボーカルエディタ上に、違う色のノートとしてハモリのフレーズが表示されたはず。ここ

では、MIDIのピアノロール画面のように音程がエディットできるので、試聴してみて気に入らないところがあればノートを上下にドラッグして音程を修正し、気持ち良くハモるフレーズに仕上げていきます。そして、できあがったフレーズを覚えて自分で歌ってレコーディングしても良いし、そのままAUTOハーモナイズで作成されたハモリ・パートをOKティクにするのもアリですね。

#### アカペラグループのような重厚なハーモニーを加える

続いては、3声のハモリを加えることができるAUTOハーモナイズ機能をフル活用して、歌メロを基にアカペラグループの歌声のような重厚なハーモニーを作ってみましょう。

AUTOハーモナイズ機能は、曲の調性とコードトラックで設定されているコード進行に応じたハモリを加えるので、あらかじめハモらせたい区間のコードトラックにコード名を入力しておく必要があります。続いて、先ほどと同じ要領でボーカルエディタにトラックを読み込んでからAUTOハーモナイズの画面を開きましょう。

3度下、5度下、オクターブ下の3つの音が歌メロの下に追加されますが、アカペラっぽいハーモニーを作る場合、それらの声部がメロディーと同じように動くよりもメロのリズムでコードトーンを歌った方が良い雰囲気が得られます。そこで、左のAUTO HARMONYは「CHORD TONE」を選び、AUTO CORRECTは「CHORD」を選択しましょう。この設定で試聴/実行すれば、画面2のような塊感のある豊かなハーモニーが奏でられます。また、ここでは歌詞のある歌メロからハモリを作る方向に進めましたが、例えば、オブリバク「Uu-」や「Ah-」で歌ったフレーズを録って、それに対してAUTOハーモナイズで3声のハーモニーを加えれば、歌メロの伴奏となる重厚なバックコーラスを作ることもできます。

いずれも、自分で歌ってレコーディングすると結

構な作業量になりますが、AUTOハーモナイズを使えば、基になるトラックを1つ録るだけで後は打ち込み感覚でハモリ・パートが作れます。

#### 完成したハーモニーを別トラックに書き出す

AUTOハーモニー機能で作成されるハモリ・パートは、AUTOハーモニーの設定画面やボーカルエディタに用意されているミキサー画面のスライダを使って音量バランスの調整ができますが、やはり、メインのボーカルと一緒にトラックで鳴っているとミックスの自由度を損ないます。そこで、ハモリ・パートに修正などを加えて完成させた後は、各声部を別々のAUDIOトラックへと書き出しましょう。

その操作は、ボーカルエディタ上で右クリックメニューを開いて、一番下の「オーディオトラックに出力」を選ぶだけで簡単。この「オーディオトラックに出力」の設定画面では、すでにある原音(ボーカル)のチェックを外して、作成された和音1~3の3つのハモリ・パートを個別に出力されるように設定すると良いでしょう。OKボタンをクリックして書き出しが完了すると、基のボーカルにバラ出力されたハモリ・パートを加えた4つのAUDIOトラックが並びます。これで、ミキサー画面で各声部ごとにEQやコンプで音を整えたり、リバーブでエコー効果を加えたり、フェーダー&パンでバランスや定位を調整することが可能となりました。

歌メロから手軽にハーモニーが作れるAUTOハーモナイズ機能は、ハモリを録り忘れた時や後から追加したい時に重宝します。しかし、それだけではなく、操作性の良いボーカルエディタの画面を使ってハモリのフレーズをMIDIの打ち込みのようにアレンジしていけるところが魅力なのです。自分でハモれるから大丈夫という人も、AUTOハーモナイズ機能を活用すれば更に魅力的なハーモニーが作れるでしょう。



画面1 AUTOハーモナイズの画面では、ハモリ・フレーズのアプローチの方法や各声部のインターバルなど、作成されるハーモニーに関する様々な設定を行なうことができる



画面2作成された各声部のフレーズは、ボーカルエディタ上に表示される。マウス操作で簡単に音程が修正できるので、納得いくまでハモリのフレーズを作り込むことが可能だ



画面3 完成したハモリのフレーズは、それぞれ別々のAUDIOトラックに書き出すことができる。録音した歌声と同様に、バランスの調整やエフェクト処理が可能だ